

いつも生徒が真ん中にいた。



ちゅん。

学校Ⅱ

山田洋次監督作品

永瀬正敏

いしだあゆみ

吉岡秀隆

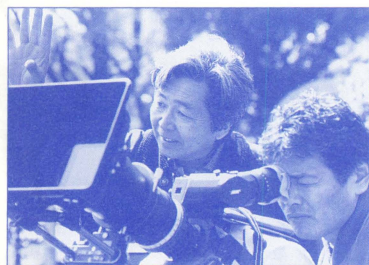
西田敏行

松竹株式会社 日本テレビ放送網株式会社
住友商事株式会社・提携作品
©松竹株式会社・配給

山田洋次監督作品

学校Ⅱ

学ぶことも、教えることもともに大きな喜びであるはずだ。『学校』が生徒にとっても教師にとっても、楽しいところであって何故いけないのだろう。



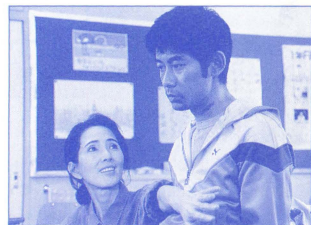
製作意図

学校や教師にとって都合のよい生徒を作るのが教育なのではない。
子どもを教える導くのではなく、子どもによりそってやるのが教師の仕事ではないだろうか。
障害児教育の現場を舞台にして、学校や教師にかけた夢を、生き生きと楽しく、
時としてしみじみと描きたい。

山田洋次

だったが、中学時代に受けた心の傷がよほど深いのか、ひとことも口をきこうとしない。
もうひとり佑矢（神戸浩）には、手を焼いた。何しろ片時もじっとしていない、奇声を発し猛烈に暴れる。何を問いかけても答えはひとつ、午後の紅茶。そんな佑矢の担当になったのが、新任の小林先生（永瀬正敏）だったが、朝から夜までつきつきりで、ほとんどノイローゼ状態だった。先輩にあたるリユー先生や玲子先生（いしだあゆみ）は、そっと小林先生を励ますのだった。

1993年に製作公開された『学校』は、山田洋次監督と長年この企画を育んできたスタッフの強く温かい眼差しに支えられ、すべての観客に深く大きな感動をあたえました。
そしてその年の映画各賞を独占、公開後もあらためて反響と評判を広げていった作品です。
あれから3年、山田洋次監督とそのスタッフが、再び先生と生徒の日常を描きながら、我々ひとりひとりの中に、こころの灯火を照らす新作に取り組みました。
『学校Ⅱ』北海道にある高等養護学校に勤務するリユー先生（西田敏行）は今年もまた、新入生を迎えた。それぞれに障害を背負った生徒たちの中で、一番知能指数が高いのが高志（吉岡秀隆）



二学期のある日。それは先生にとって劇的な出来事が起きた。生徒のひとりの作文を読み上げる玲子先生の手から用紙をひったくろうと暴れる佑矢にむかって、「うるさいぞ、静かにしろノ」わかったか。わかったら手をあげろ」と怒鳴った生徒がいた。高志であった。それまで一言もものを言わなかったあの高志であった。おまけにそう言われた佑矢は「はい」と素直に従ったのである。
この日を境に、生徒だけでなく先生もまた何かが大きく変わっていくのだった。



《出演者》

西田敏行

吉岡秀隆

中村富十郎

泉ピン子

原日出子

神戸浩

いしだあゆみ

永瀬正敏

《スタッフ》

監督 山田洋次

脚本 山田洋次

朝間義隆

撮影 長沼六男

美術 出川三男

音楽 富田勲

松竹株式会社
日本テレビ放送網株式会社
住友商事株式会社・提携作品
配給 松竹株式会社

10月19日(土)より大公開!

特別鑑賞券(一般¥1400/学生¥1200)発売中

有楽町・マリオン新館5F

丸の内松竹

03(3214)3366